

三鷹市立東台小学校 令和5年度【社会科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第3学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りについて、よりスムーズに行えるようにする必要がある。 学習意欲の向上を促す教材研究が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用を積極的に社会科の学習に取り入れ、慣れさせる。調べ学習を促す場の提供をしていく。 体験的な学習を多く取り入れる。地域の方を講師として呼び、具体的な講話を聞く。また、社会科見学等、自分たちで見て、聞いて、触って、感じる学習を提供していく。 学校にある市内の町の様子など身近なものを教材として扱うことで、どのように暮らしていたかなど、児童が考えられる教材を提供していく。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書やその他の具体的な資料、地図やタブレット等を活用して、身の回りの社会的現象に対して児童が興味・関心をもって調べ、学習に取り組むことができた。 地図を活用する力が身に付いた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの資料の中から必要な情報を読み取り、まとめることが難しい。 問題に対して調べるだけになってしまい自分の考えをもつ児童が少ない。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な資料から必要なことを読み取り、関連させて考え、表現させる指導が必要である。 課題解決に向けて、児童自身が学習単元全体の見直しをもって取り組めるような手立てが必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの社会的現象について、自分とのつながりを意識して捉えられるよう資料を工夫する。 児童が十分に調べたり考えたりする時間を確保し、児童が主体的な学びに向かう習慣を育成できるようにする。
第4学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の学習意欲の高まる資料を選択し、提示していくために教材検討が必要である。 調べ学習の場面では、児童が必要に応じて資料を選択し、調べることができるように支援していく必要がある。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元全体を通して計画を立て、具体的な資料を準備し計画的に提示できるようにする。 必要な情報を得るための方法を児童自身が考え、選択・判断できるように指導する。 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の始めと終わりに課題シートを配り、自身で問いを作成し、答えを調べている。始めと終わりの問いを比較することができている。 タブレットを活用し、具体的な資料を多く提示している。また、調べ学習でもタブレットから調べている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分事として捉えられていない児童が見られる。自分に何ができるのかワークシートには書けるが実行に移すところには至っていない。 学んだことをまとめることができない児童が見られる。何をまとめたら良いのか分からず、考えをもつことができない。また、調べ学習も同様な児童が見られる。 	<p>(指導法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べることが分からない児童が見られた。調べる内容を明確に設定していく。 まとめるを行う際の表現方法を指導する。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ごみの処理と利用」では、実際にごみ処理場を見学することを通して調べる内容を明確に児童の思考を深めることができた。 児童が活動に見通しをもてるように、教員の指示を単純かつ明確にしていく。
第5学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な資料の読み取り方、結果や事実からどのように考えにつなげていくのかを指導する時間が不十分である。 児童が自分事としてとらえられるように、児童に身近なものや関連付けたり、授業の振り返りを次時の学びにつなげるなどの工夫が不十分である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元計画の中で資料の読み取り方を児童と考える時間を設け、読み取り方のスキルを身につけさせ、考える視点をもたせる。 単元の中で考える時間→調べる時間→考える時間を明確に示し、保障することで、児童が主体的に学びに向かう習慣を育成できるようにする。 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、教科書や資料集、タブレットなどを活用して資料を集めることができていた。 調べてわかったことをキーワードを入れながら自分の言葉でまとめることができる児童が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するための資料を見付けることはできるが、資料から読み取った変化や事実・結果から自分の考えをもつことが難しい。 学習後、さらに知りたいことを自主学習の時間等を使って調べる児童が少なく、学びを深めることが難しい。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容が多い単元などでは、教え込みの授業になってしまった。 実際のチラシを切り張りして白地図にまとめたり、新聞を作成したりしたが、学習のまとめで差ができてしまった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校外学習などの体験型の学習を大切にしながら、普段の学習と結びつけながら学習を進めていく。 学校で習ったことを復習する際に、学校で使用しているノートを活用したり、授業時に考えたもつと知りたいことを調べてくるように伝え、学びを深められるように指導していく。
第6学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童自身が学習内容をもとに自分の考えを深めたり、変容させたりするような言葉かけ、指導技術が未熟である。「もつと知りたい!」と自発的に思わせるような仕掛けを工夫していく必要がある。 指導内容を指定時間数で終わらせることで精いっぱいになり、児童が興味をもったことを探求していけるような時間確保ができていない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期が始まる前に学習内容を把握し、見直しをもつことで、児童が興味をもったことをじっくりと探究する時間を生み出す。 歴史単元では、時代を比較する、重要人物の考え方を比較する、現在とのつながりを考えるなど、時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類、統合する視点で授業を構成し、知識に頼らず思考を通して理解を深めていく。 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治の学習では、日本国憲法や震災と復興など、資料から学習問題を見だし、適切に資料を読み取り、学ぶべき知識や技能を得ることができている。 歴史学習では、高い興味を示し、現在の自分たちの生活と比較しながら学びを進めている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治の学習では、課題に関して調べる際は、タブレットを活用し、書いてあることをそのまま引用する児童が多く、分かったことに関して自分なりの考察をするのに課題がある。 歴史の学習では、現在と過去の比較に関心を示す児童はいるが、社会的な見方・考え方を働かせたり各時代の繋がりを考察したりすることに課題がある。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治学習では、資料の読み取り方や、資料同士を関連付けた考察の仕方など、技能面を具体的に指導する時間が少なかった。 歴史学習では、単なる暗記ではなく繋がりを意識した指導をしているが、提示する資料の工夫や出来事の背景を検討する時間が十分とは言えなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が考察をするための事実を得る資料の精選、各時代の繋がりと変遷を考察できるような時間を設け、知識・技能だけでなく多面的に教えられるようにしていく。 政治の学習では、児童が調べて終わりになるのではなく、そのような政策が選択された背景や理由を学べるようにする。時には「自分だったらこのときどうしたか」を考えさせるなど、自己の考えをもって、述べたり、他者の発言を聞いたりすることで、もっている知識を活用して、自ら選択・判断する場面を取り入れるよう指導計画を工夫する。